

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 23 年 1 月 9 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470700356		
法人名	有限会社 いのくち		
事業所名	グループホーム ゆかりの里		
所在地	竹原市福田町1300-1 (電話) 0846-24-1287		
自己評価作成日	平成23年1月8日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先UR	http://www.hksiks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3470700356&SCD=320
------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成23年1月28日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>長年培ってこられた「生きるための力」が今どの程度なのかを知り、知った上で存分に発揮するために自分の意志で行動し達成感、満足感を抱きながら暮らしてもらうことに力を入れています。普通の生活を続けるために自分たちで食べたいものを作って食べることを。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<ul style="list-style-type: none">・日当たりが良くて、明るいうびんぐルームに入ると、入居者と職員の笑顔と楽しそうな会話が聞こえ、一人ひとりが自由で、生き活きと、メリハリの利いた生活を過ごされている様子が伺えた。・入居者がいつまでも暮らしていける環境づくりを目指し、入居者一人ひとりの能力に合った自立支援で、地域の中で生き活きと豊かに生活していくという思いを職員が共有し、実践に向けて取り組む姿勢は、家族からの信頼も厚いものがある。・地域の行事や活動等に積極的に参加し、また事業所の力を活かした地域貢献にも取り組んでおり、地域からの信頼も厚くなっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念に基づいて地域と交流を深めながら実践している。 ・理念を掲げて管理者と職員は共有し実践していると思う。 ・勉強など再確認しながら実施していると思う。 ・三つの理念を掲げふれあいサロンに参加したりその人の気持ちを受け止め声かけに気を配る。	全職員は理念を良く理解した上で、入居者が第二の我が家として、自分らしく生活していけるよう見守っていくこと、日々の暮らしの中で地域と共に歩み、心豊かな町作りに寄与し、地域福祉に貢献することを意識しながら、実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	・保育園、幼稚園、地域の行事などに積極的に参加している。 ・日常的に散歩や買い物に出かけて挨拶をかわしたり、話をしている。 ・回覧板をまわして近隣に住む人と交流がある。 ・利用者と地域がつながれるように外出の機会を作れているように思います。	普段の暮らしの中で、近隣の人たちが野菜の差入れや、立ち寄りたりする間柄が出来ている。ホームで開催している行事には、地域の方の参加を呼びかけ、多くの方が参加されており、理解と支援の輪が広がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	・認知症サポーター養成講座の講師として地域住民を対象に認知症の講師をして啓発に努めている。 ・人材育成の貢献として実習生の受け入れをしている。 ・行事などを通して認知症の理解や支援方法を地域の方に生かしていると思う。 ・ディサービス、ショートスティの受け入れ。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	・利用者の様子を伝えてありのままを見てもらい意見をもらってケアにいかしている。 ・地域の人たちなど幅広い人達に参加してもらっている。 ・利用者、家族、地域の人駐在所、幅広い人に参加してもらい会議の内容をホーム長から報告があり参考にしてケアにつなげている。	会議には、家族、自治会長、民生委員、市職員、地域包括支援センター職員等が参加し、ホームの現状、行事等を報告し、活発な意見交換の場となっている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	・月に一回相談員さんが来られ状況を伝えながら実際の生活を見てもらっている。 ・介護相談の人がこられ利用者の人と話をされ現場を分かってもらおう。	市職員、地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時にはもちろん、その他の機会にも連絡を密に取り、情報を共有し、協働関係を築いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の権利擁護や身体拘束に関する勉強会を事業所の中で実施して職員の共有認識を図っている。 ・玄関の施錠ほか身体拘束は一切ありません。 ・身体拘束をしないケアをしている。 ・取り組んでいる。玄関もいつでも出入りできるよう開錠している。 ・勉強会などで話し合いをする。しないケアをしている。 ・本人のいやがることを無理にしない（力づく） 	<p>身体拘束マニュアルに基づいて、日常のケアの中で振り返り、管理者者と職員で気づきを伝え合いながら、共有認識を図っている。また、見守りを徹底し、入居者の様子を察知することで、鍵をかけない暮らしを支援している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者虐待防止の研修会に行き、勉強会をとおして高齢者虐待防止法に関する理解を浸透し遵守につなげる取り組みをしている。 ・虐待についての勉強会を行ったり内容についても詳しく知識を出し合ったりし、話し合っている。 ・勉強会を行い虐待について学び虐待防止に努めている。 ・虐待があるとは思えないが、なにげなく言っている言葉に虐待がある場合があるので注意する。 		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・講師を招いて勉強会をして認識をたかめている。 ・勉強会を行い学ぶことができた。 ・勉強会など話し合いをするべき。 		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・契約時には事業所のケアに関する考え方や取り組みについて説明している。 ・契約するとき説明している。 		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ご家族には月報告の機会を通じて意見をもらう配慮をしている。 ・利用者同士の会議（意見交換）全体会議に利用者に参加してもらう。家族会で話し合い。（食事をしながら） ・会議に利用者参加。 ・昨年一度家族会を行い意見交換ができたことよかったと思う。利用者の意見不満を聞ける場があればいいと思う。 ・していると思う。利用者の家族と一緒に食事をし意見をいただいて参考になっている。 	<p>家族の来訪時には声をかけ、コミュニケーションに努めるなどして、家族意見、要望を聴き取る努力をしている。また、運営推進会議に家族の参加があり、意見、要望を表出する場となっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から職員の要望を聞くように心がけているが、なかなか言いにくいと思う。 ・職員の疲労やストレスには気を配り気分転換に食事会の配慮がある。 ・日常の申し送り、月一回の全体会議を通して意見提案ができる機会がある。 ・設けられているが職員が自分の意見を言っていない。反映はほとんどされないように思う。 ・月一回の全体会議で意見交換は行っている。 ・全体会議、申し送りなどで話し合いをしている。 	常日頃から、管理者は職員から意見や要望、提案を聴き取り、それらを運営者に伝え、反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・各自が向上心を持って働けるような環境、条件が整っているかどうかは疑問。 ・職員の疲労やストレスに気を配り食事会の配慮がある。 ・職員の資格取得に向けた支援（認知症実務者研修） ・もう少しゆったりした気持ちで利用者に関わるケアをしたいので職員を入れて欲しい。 ・努めてもらっている・・・としたい。 		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症ケアの研修を受け現場のケアにつなげている。 ・年間行われる外部研修に順番に参加するようにしている。 ・研修の機会は与えられているが、 ・スタッフ一人ひとりの把握はされていない。 ・されている。 		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者は市内に連絡協議会あり研修会に行っている。 ・他の事業所との交流を・・・という話しもあったが依然としてない。 		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・時間をかけて傾聴し安心してもらう働きかけ、声掛けを心掛けている。 ・事前面談で生活状態を把握するように努める。又、利用者によっては通所で利用してもらい本人の求めていることや不安を理解する。 ・信頼関係と作るためその人の気持ちを理解しその人を知りしっかり傾聴し安心するような声掛けを心がけている。 ・安心してもらえるよう本人の困っていること不安なことを傾聴している。・安心してもらえるよう配慮している。 ・時間をかけて傾聴し安心していただけるように。コミュニケーションの時間を大切に。 ・夜勤時、入浴時している。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで私自身体験したことがない ・家族の困っていること、不安なこと要望が話しやすい環境づくりをしている。 ・面会の際何かあれば聞くようにしているし要望が家族より出たら皆で話し合い対応している。 ・状況の把握、話し合う。相談があれば聞く。 ・相談があれば管理者に報告しみんなで考える。 ・家族の苦労や今までのサービス利用状況など、これまでの経緯について聞き、相談につなげている。 ・家族が求めていることを理解し、事業所としてどのような対応ができるか事前に話し合いをしている。 		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・知識をもち対応する。 ・カンファレンスしてみんなで対応の見当をしている。 ・利用者が現在まで生活してきた状況を把握し支援を考える。 		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者ごとに支援の内容が違うのでその人に合ったケアをしている。 ・少しずつ築いている。また、時に馴れ合いの関係になるので注意している。 ・日常生活を通して掃除、食事づくりなど一緒に行い利用者から学んでいる。(2名) ・一緒に料理、おしゃべりをしながらその人らしさを知り共に暮らしていると感じている。 ・支援する側、支援される側という意識もたず、お互いが協働しながら和やかな生活ができるような場面づくりをしている。 		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	<ul style="list-style-type: none"> ・家族のちからをかりて共に本人を支援できていると思う。 ・家族の方にも行事に参加してもらい共に支えていると思う。 ・本人の日ごとの状態を報告相談して関係が途切れないようにしている。 		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・馴染みの美容院へ行ったり、親戚の方、友人の訪問があり途切れない関係の継続ができています。 ・地域に暮らす馴染みの友人、知人、お店等に行ける働きかけをしている。 	地域に暮らす馴染みの知人、友人の訪問がある。また、入居者の話を聴きながら、馴染みの場所へ出かけるなど、地域の中でこれまでの関係が途切れることのないよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者同士の関係を把握できており孤立しないようスタッフが間に入り支援に努めている。 ・なるべく皆で関わりあえるようにしている。 ・皆で声を掛け合ったり利用者が別の利用者を呼びに行ったり「あの人が困っているので助けてあげて」とか言って支え合っている。 ・利用者同士意見の違い、聞き違いなどトラブルにならないように気を付けている。 ・利用者が皆仲良く一つのことに取り組んで楽しく生活されるよう努力する。 		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・できていない ・他の施設に行かれた方を訪問し一緒に写真を撮り関係を続けている ・家族の相談や支援に努めている。 ・他の施設へ入所されたところへ利用者様と面会に行ったり、また、来園されたり関係性を大切にしている。 		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの意見を大切にし、本人様の要望を取り入れながらケアしている。 ・その人の思い希望を聞くようにしている。困難な場合でも一度は受容し本人主体で考える。 ・言葉や表情などからその真意を推し測って確認するようにしている。意思疎通が困難な方ほど丁寧に関わりより正確な状況を知ろうとしている。 	全職員はこれまでの関わりの中で、入居者一人ひとりの思いや意向を把握し、それを、全職員で共有し、家族と協力しながら、本人の視点に立ったケアに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービスの経過等の把握に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・何がしてほしいのか把握に努めている。 ・これまでの生活歴など踏まえてそれに沿った生活を検討している。 ・情報のファイルを開いて再確認している。 ・ご家族ご本人から話を聞き今までの生活環境の把握につとめている。 ・一人ひとりの生活リズムを理解する。できないことよりできることに着目してその人全体の把握に努める。 		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの状態を把握し有する能力を発揮できるよう努めている。 ・利用者に合った一日の過ごし方、心身の状態にあったケアをしているか疑問である。 ・料理のできる人、お盆などセットできる人、裁縫のできる人と考えてしている。 ・能力を見極めて対応している。 ・その人のできる能力を見極めてできることを積極的にやってもらい自分は役に立っていると思ってもらうように努めている。 ・経験と情報交換に基づき、個々の生活パターンを把握している。その人にいろいろなことを投げかけその人の力量を計り努力している。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・その都度話し合い意見を出し合いながらケアに取り入れている。 ・本人家族の思いを取り入れてスタッフ間で共有し必要なケアを計画にいかしている。 ・本人の現状をスタッフ間で情報交換しながら介護計画を作成していると思います。 ・カンファレンスを開きスタッフ同士で話し合い家族の話し合いが必要であれば管理者が話対応して介護計画を作成している。 	<p>本人や家族の思いや意見を大切にしながら、担当者会議で関係者が話し合い、現状に即した介護計画を作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個別にファイルを用意し食事・水分量・排泄など身体状況日々の暮らしの様子や本人の言葉、エピソード等記録している。いつでも全員が確認できる。 ・朝夕の申し送り時間問題が起こったことを話し合い実践や計画の見直しに役立てる。 ・個々の一日の様子を記録に残し引き継ぎ時に情報交換をし次につなげている。 ・申し送り時、申し送りノートなどで対応。 ・毎日の申し送り、申し送りノートで情報を共有している。 ・実践や介護計画に活かせるように日々の気づき、状態を個別に記録し申し送りしている。 		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・予定以外のこと、時間延長サービス、本人、家族の状況に応じて臨機応変に対応している。 ・本人家族の状況に応じて通院送迎など必要な支援を柔軟に対応していく努力をしている。 ・一人一人の状態、現状に合わせてケアができるようスタッフ間で話し合いながら支援している。 ・臨時のニーズにはその都度申し送り時に話し合い支援方法を検討している。 ・本人の要望を踏まえながら自立をも目指した支援に努めている。 ・利用者と家族が安心して暮らせるように支援している。 		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員、ボランティア、警察、消防、教育機関と協力しながら支援している。 ・地域に根差したホームを目標にしている。 ・本人の要望を聞きながら外出の機会をつくり、暮らしを楽しむ支援をしている。 ・月に一回地域のふれあいサロンへ参加したり、幼稚園、保育園の交流で楽しく過ごす。 ・訪問の美容院を利用している。 		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個々のかかりつけ医と協力しながら適切な医療を受けられるように支援している。 ・母体がかかりつけ医であり定期的に検査がなされている。専門外は適切な医療機関へつなげてもらう。 ・本人や家族が希望するかかりつけ医になっている。受診通院は基本的には家族同行の受診となっているが、不可能な時には職員が代行している。 ・入居後も主治医の変更は勧めていない。受診の付き添いや家族とも同行している。普段の様子変化を伝えるようにしている。 	<p>かかりつけ医の受診については、家族にお願いしているが、やむを得ない場合は、職員が同行支援している。また、緊急の場合と、定期健診は母体医療機関にお願いし、入居者が安心して、適切な医療が受けられるよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	・現状を把握しながら気づきがあれば報告し適切な看護が受けられるような支援をしている。 ・看護師と気軽に相談でき利用者の健康面、状態の変化に応じた支援をしている。 ・体調や些細な表情の変化を見逃さないように早期発見に取り組んでいる。変化に気づいたことがあれば、看護師に報告し適切な医療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院中面会に行ったりしてダメージを少なくするようにしている。 ・入院時には、情報を医療機関に提供し、職員が見舞うようにしている。家族も回復状況を伝えてもらう。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	・重度化した場合家族と話し合いその時の対応、できるケアを説明する。 ・重度化に伴い意思確認書作成し、事業所が対応し得るケアについて説明をしている。	事業所の力量や体制が、重度化や終末期を支えていけるのかを見極め、他の入居者への影響も踏まえて対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	・勉強会で学び実践できるように努める。 ・訓練することによって焦ったりせずに落ち着いて対応できるようになっている。 ・勉強会の時院長先生より説明で勉強している。 ・すべての職員が、年一回応急措置の訓練を実施し体験、体得、習得するようにしている。緊急対応について周知徹底を図っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	・年一回の防災訓練の時地域の方と一緒に防災・避難訓練をしている ・消防署の協力を得て避難訓練、消火器の使い方などの訓練をしている。	定期的に地域の方々と一緒に避難訓練や、連絡体制の確認、夜間を想定した訓練を実施している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉かけをする時は、人格を尊重しながら不快な思いをさせないように気をつけている。 ・聞き間違いがあるといけないので目を見てゆっくり大きな声で言葉かけをしている。 ・まず初めに自分が言われて嫌なことは言わない。言葉を選んで声掛けをする。 ・自己決定、自己選択しやすい言葉かけをするようにつとめる。 	入居者を人生の先輩として敬い、尊重し、毎日の暮らしの中で、本人の誇りやプライドが傷つかないように、さりげない言葉かけや対応をしている。また、個人ファイルなど、個人情報の取り扱いについても配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	<ul style="list-style-type: none"> ・日々のコミュニケーションを通して本人の意見を聞くよう支援している。 ・本人が委縮せずに発言できるように一人ひとり信頼関係を築く努力をしている。 ・本人のおもいを大切にしながらの支援。 ・日常生活の中でまず初めに本人の思い希望を聞いて次の行動に移る。 ・なるべく思いを聞き入れて支援をしている ・利用者に合わせて声をかけ、意思表示の困難な人ほど丁寧なかかわりをするように努力をしている。 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりのペースを大切にしたい思いはあるが団体生活のため難しい時が多い。 ・時々職員側の都合を優先することがあるが、一人ひとりの要望を聞きながら支援している。 ・基本的な一日の流れはあるが、区切った過ごし方はしないようにしている。しかし、入浴や行事等、職員の都合で決めることもある。 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・服など自分で選んで着ている。 ・行きつけの美容院へ行っている。 ・入浴、爪切り、散髪等気を付けて注意をしている。 ・支援しているが、たまに、寝癖がついたまま朝食を食べていることがあるので気づき対応できるように気を付けていきたい。2か月に一回美容師訪問がある。 ・本人のこだわっているスタイルを把握してその人らしさを保てるようにしている。 ・本人の馴染みの理美容院で希望に合わせた毛染めをしている。 		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・一緒に食事づくりはいつも心懸けている。誕生日の日はその人の大好きなメニューを聞いて作っている。 ・食べるのはたのしみだが、料理は楽しくなさそうなきがする ・その人が出来ることを把握し少しでも何か(調理・片づけ)に関わられるように声をかける。 ・食事の準備から片づけまでその人にできることを声かけしながら多くの人が参加できるようにしている。 ・スタッフと一緒に作り、一緒に食べ、一緒に片づけ、楽しみながらできるように支援している。 ・一緒にメニューを決め(考え)作り、食べ、片づけをする。ただし、体調には注意。 	一人ひとりの力を活かしながら、食事の下準備や下膳等職員と会話を交わしながら、一緒にしている。入居者と職員が会話をしながらの食事風景は、穏やかで温かい光景である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・食べる量や栄養バランスは確保できていると思うが、水分が十分でない人がいる。 ・水分が少ない人は、その人が好む飲み物を飲んでもらうように心がけている。 ・一人ひとりの食事量、水分量を常に意識しながら配慮している。 ・食事量、水分量を個別に記録し支援している。 ・一日1500ccを目標にしている。水分チェック表の利用。 ・水分量は水分チェック表を作成し必要最低限の量を摂ってもらえるよう対応。栄養バランスも確保できている。 ・一日全体を食事量、バランス、飲料水の確認おやつや捕食も含めて利用者一人ひとりの必要量を把握して意識している。 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎食後の歯磨き、入れ歯洗浄歯科衛生士のチェック ・ほぼできているが全員が毎食できていない。 ・毎食後声かけしながらその人の力に応じた介助をしている。 ・毎食後利用者に合わせた介助をしながら口腔ケアをしていつまでも美味しく食べ続けること。嚥下障害による肺炎の防止につなげている。 		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・下着に尿取りパット、紙パンツに尿取りパット等その人に合った支援を行っている。パットの使用量を減らすように声掛けをするが、本人の自尊心を傷つける場合がある。 ・一人ひとり排泄パターンを把握し事前に声かけを行い失敗しないように努力している。 ・声掛けなどして自立に向けた排泄を目指している。(パットに出ていることが多い) ・尿漏れ体操、声掛け(トイレ誘導)、食後のトイレ誘導 ・トイレでの排泄を大事にしながら、紙パンツ、パット類も本人に合わせて検討している。 	排泄と水分のチェック表にて、入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、入居者の様子を見守りながら、個々の身体機能に応じ、誘導、介助を行い、排泄の自立に向けての支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・食事の内容、水分、運動、食後のトイレ誘導の心がけ ・水分、食事に気を付けながら便秘予防している。 ・排便を促す食べ物を食事に取り入れ、どうすれば体を動かしてもらえるか声かけ工夫をする。 ・排泄を記録し便秘の方は牛乳、ヨーグルト、十分な水分補給と繊維の多い食材の提供と腸がよく動くように運動をこころがける。また、身体を動かすことの大切さを常にいしきする。 		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めず，個々に応じた入浴の支援をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・一日おきしてもらう。本人が希望すれば毎日入浴する。清潔を保つために本人が入浴をしたくない時でもスタッフの都合で入浴を進めることがある。 ・その人の生活パターンと照らし合わせながら健康状態を考え声かけし、気持ちよく入浴してもらえるように努力している。 ・本人の希望に合わせて入浴されている。 ・基本的には一日おきだが希望や状況に応じてそのむねでない。入浴時間は18時頃までときめている。 	本人や家族から一人ひとりの習慣や好みをよく聴いて、相談しながら個別の入浴支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・室温に気を付けている。一人ひとりの心身の状態に合わせて休んでもらう。 ・その日の健康状態、精神状態その人の生活パターンを考慮しながら支援している。 ・本人の要望、その日の体調、習慣に合わせて休息できるように支援している。 ・室温に注意、本人希望、体位変換 ・個々のそれぞれの休憩時間がある。 ・なるべく日中の活動を促し生活リズムを整えるようにとめている。 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・本人に手渡し服薬を確認する。 ・服薬は手渡し、必ず確認している。 ・理解しているものもあるが知らないものもあるので勉強しないとけない。 ・服薬は本人に手渡し、服薬を確認する。新しく薬が処方されたときは、その人の症状の変化に気をつける。 ・理解していない薬もある。 ・漫然と服薬支援を続けるのではなく状況の変化を記録しその情報を医師に連絡することも必要。 		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の生活の中で役割はある。楽しみごとが少ないので週に一回位は気分転換の支援ができればよい。(ドライブ・幼稚園・保育園との交流) ・頻繁ではないが時々支援している。 ・買い物に誘って以前自分がしていたことを思い出し気分転換になりそれを楽しみに変えていると思う。 ・その人にしかできないこと、その人がいきがいてしている役割等してもらいながら自分の存在を意味あるものにしてもらえるよう支援し努力している。 ・行事などを通して気分転換できる環境を作っている。 ・食事づくり、干し柿づくり等利用者の経験や知恵を発揮する場面を作っている。遠出の外出など楽しみごとを相談している。 		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・ドライブ、買い物、散歩 ・年に数回家族を誘い戸外へ出かけている。行事を企画して地域の人との交流をしている。 ・外出の機会がもう少し増えたいと思う。 ・かいもの、ドライブ、散歩、外食、日帰り旅行 ・時間の許す限り外出している。なかなか本人希望通りに行かない。 ・家族の協力的下日帰りドライブに行ったり、利用者の要望があれば外出できる日は外出できるように支援している。 ・外食、お弁当を持って戸外に出かける等積極的に外出している。 	入居者一人ひとりのその日の体調や希望に沿って、散歩に出かけたり、ホームの玄関先の花壇の手入れを行いながら、外気浴が出来るよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・能力のある人は自分で管理している。 ・少しの金額は管理している方も居る。基本は事業所で立て替えている。 ・本人がお金を使う機会はほとんどない。 ・能力のある人は施設内のお金で支払いを頼んでいる。 ・スタッフと買い物に出かけたり、利用者同士で近所へ買い物に行かれています。 ・金銭の所持については、本人の安心や満足に向けて金額は持っている方も居る。自分でお金を出すことは社会性の維持につながると思う。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の希望で電話をかけている。 ・自由に電話したり、手紙のやりとりをしている。 ・電話をしないとと言われる時は自らしてもらい、時には電話してみたらと声をかける。 ・年賀状、案内等手紙を書く支援をしている。お礼状など通信のきっかけとしている。 		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・特に夜間は不快な音が出ないようにしている。玄関リビングに花をおいている。月に一度フラワーアレンジメント教室があり季節の花を活けている。 ・花を活けたり、壁に季節のものを飾ったり工夫している。 ・居心地よく過ごされるよう温度調節、換気に気をつけている。 	ホームの玄関周りには綺麗に整備され、ベンチ、花壇の季節の花が、来訪者を温かく迎えてくれる。ホームの中に入ると、掃除が行き届き清潔で、共用部分は広く、窓からの自然な光で明るく、壁には入居者の作品が飾られ、家庭的な雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ソファ、畳コーナー、など利用者同士で過ごせるよう工夫している。 ・玄関先のソファ、椅子、畳コーナーで利用者同士でお話している。 ・一人で過ごしたり、仲のよい入居者同士が寛げるスペースがある。 		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで使われてきたものを生かしながら本人が安心して過ごせるように工夫している。 ・居室は使い慣れたもの、好みのもの思い出に残る写真がおいてある。 ・一人ひとり個性のある部屋になっている。 	居室は明るく清潔で、入居者、家族と相談しながら持ち込まれた馴染の家具や好みの小物で、入居者が落ち着いて居心地良く暮らせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	<ul style="list-style-type: none"> ・手すりなどをつけ安全かつできるだけ自立した生活が送れるよう工夫している。 ・おやつ時のお茶、コーヒー、レモンティ、ココア、カップの位置が分かるようにしてある。 ・トイレ、浴室など手すりがついている。 ・工夫してある。 ・本人にとって「何が分かりにくいのか」「どうしたら本人の力でやっていただけるか」を追求しながら状況に合わせて環境整備に努めている。 		

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム ゆかりの里

作成日 平成23年 3月22日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	14	職場内で日頃いきづまっている仕事の悩みの解消	事業所の質の確保のために同業者との交流をもってスキルアップにつなげたい。研修目的, 事例検討, 交流会。	・4月に交流先の事業所をお願いする。 ・何度か話し合いをしていく。	・7月初旬に実現
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。